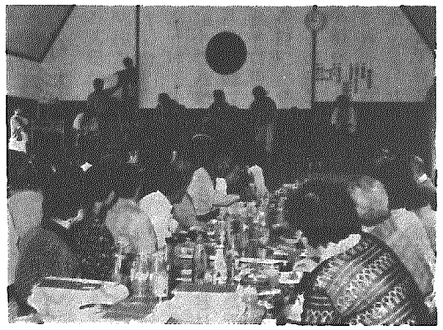
長寿のお祝い

五会場で敬老会

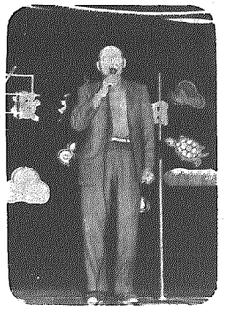
民踊やカラオケなどで楽しむ

贈りものを受ける
五十嵐タミさん（90歳）
（沢海会場）

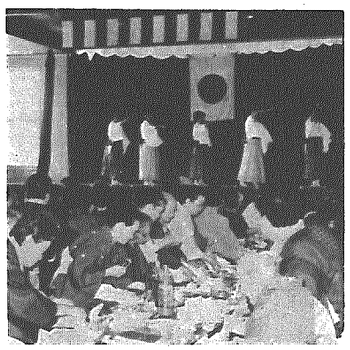
九月十五日敬老会の日に、呼び七十一歳以上のお年寄り八四五人を招いて村内五会場で、地区や公民館分館の主催により敬老会行事が行われました。当日はこのうち六一三人が出席し、県や村及び村社会福祉協議会から記念品が贈られたあと、祝宴が開かれ、心ずくしの折詰とお酒などで舌づつみを打ち、婦人会などの民踊やカラオケなど楽しみました。



子どもたちも二本木太鼓で祝福
（二本木会場）



今年も元気に自慢ののどを披露
大竹久蔵さん（80歳）
（小杉会場）



民踊などで楽しむ（木津会場）

余興の歌や踊りで楽しむ　（横越会場）

カギかけは家族みんなの合言葉

10月11日～20日
「全国防犯運動」

10分間に５７件――この数字は、昨年、全国で起きた空き巣や窃盗などの発生件数です。泥棒は、あなたのほんのちょっとしたスキをねらっています。出かけるときは、必ずカギをかけると同時に、隣近所に声をかけることもお忘れなく。

食事こそ家族のきずな

①
女子栄養大学教授
食生態学　足立己幸

食事づくりから遠ざかった子供たち

増えてきた〝時間差食事〟

家族そろって食卓を囲み、同じ献立を一緒に食べるという伝統的な食事様式に代わって、最近は、一人で食事をするいわゆる〝孤食〟や〝時間差食事〟が増えてきました。子供たちが食事に対して無関心、無感動なのは、こうした食事の仕方にも原因があるようです。

つまり、家族がそろって食事をしなければ、一方、現代は、お金さえ払えば、何でも好きな物を好きなだけ買って食べることができる時代です。別の言い方をすれば、食事づくりに参加しなくても食べられるようになってしまったのです。

例えば、自動販売機に硬貨を入れ、ボタンを押せばお好みの飲料缶が出てきます。インスタント食品を買い置きしておけば、いつでも好きな時に加熱するだけで空腹を満たすことができます。

このような食事づくりから遠ざかってしまった社会環境の中では、子供たちが食事に感謝するどころか、食事に対して無関心、無感動になったとしてもちっとも不思議ではないのです。

野性の動物は、食べることのためにその一生を費やします。獲物を探し、獲物をとらえ、それを食べるという行動は、自然と子孫に伝わっていきます。

わたしたちの祖先も、かつては毎日の食料を手に入れるために労働の大半を費やしてきました。そこでは、食料を生産したり調理したりする場に、家族全員が参加し、協力し合っていたので、食べ物を口にするときの喜びもひとしおだったことでしょう。

このような状況の中で、子供たちは食べ物や食べ物をつくってくれる人に対して、自然と感謝の気持ちをもつようになっていました。

食事に無感心、無感動でも不思議ではない

親から子へと伝えられるはずの食事の知識や、食べ物に対する感謝の気持ちが伝わらないままになってしまうからです。

子供に食べ物の大切さを教え、感謝する気持ちを育てるためには、何より親が積極的に食事づくりをすることです。そして、できるだけ食事づくりの現場を子供たちに見せることです。

その上で、世代の違った家族が食卓を囲み、一家だんらんのひとときをもつようになれば、子供たちが食べ物の知識や調理を知る機会も増え、食事に対する考え方も変わってくるのではないでしょうか。

夕暮れは、ライト早めに、前方注意

【運動の重点】

1. ライトの早期点灯と安全速度の励行
2. 歩行者及び自転車利用者の安全通行の励行
3. シートベルト、ヘルメット着用の徹底

10月21日から11月20日までの間、夕暮れ時の交通事故防止運動実施期間です。

秋の深まりとともに日の暮れるのも早まり、また天候も不順になるなどから歩行者や自転車利用者を中心とした交通事故が多発する時期であり、次のことを守って事故を防止しましょう。

◎ライトは早めに点灯しましょう！

自動車やバイクはもとより、自転車もライトを早めにつけることは視界をよくするだけでなく、歩行者などに車の往来を知らせることになります。

◎夜間はスピードを控えめに！

夜間はライトが頼りですが、照射距離は、下向きの場合せいぜい40メートル位です。

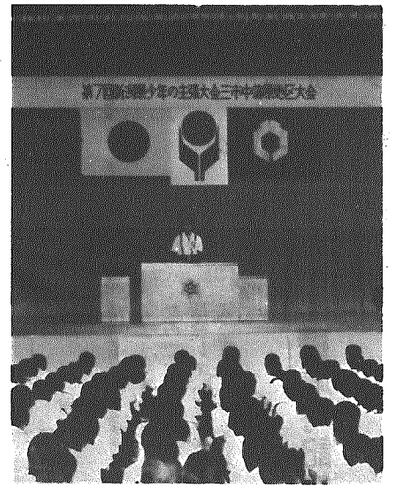
夜間はスピードを控えめに運転しましょう。

◎道路横断は左右確認を！

道路を横断する時は左右の安全を確認しましょう。又、とび出ししないよう注意しましょう。

◎夜間は目立つ服装を！

夜間外出する際は、運転する人がよく見えるように目立つ明るい色の服装や、夜間反射材などを身につけましょう。



大勢の聴衆の前で
堂々と発表する渡辺さん

横中 渡辺亜希子さん 少年の主張三市中蒲大会で 最優秀賞受賞

第七回新潟県少年の主張・三市中蒲原地区大会が九月十一日、亀田町立西中学校体育館で開かれ、横越中学校から出場した渡辺亜希子さん（三年）が見事最優秀賞を受賞しました。

大会には、新津市・五泉市白根市・中蒲原郡内の中学生が、日ごろ考えていることや感じていることなどを、五分以内にまとめ発表するもので、各市町村の中学校から選ばれた代表十三人（男子六人・女子七人）が参加しました。

教育関係者、父母、地元中学生ら約九百人の聴衆の前で緊張して思うように発表できない人や、少年とは思えぬほど堂々と発表する人などさまざまななかで、「今〝ありがとう〟の言葉に替えて」というテーマで、自分の生い立ちと現在まで暖かく励まし育ててくれた母、祖父母らに感謝する気持ちを、感情豊かに発表した渡辺亜希子さんが最優秀賞に選ばれ、県大会の三市中蒲代表となりました。

なお、県大会は、九月二十八日新潟市公会堂で開催され、渡辺亜希子さんは堂々と発表した結果、奨励賞に選ばれました。

〝魔の薬〟には手を出すな！

「疲労回復に効く」「強精剤」というのは真っ赤なウソ。麻薬・覚せい剤は、あなたの人生を台無しにします。

麻薬・覚せい剤禍撲滅運動
10月1日～11月30日

昭和六十一年度
新潟県農業大学生
募集

一、募集人員　65人（総合農業・蚕業・園芸・畜産科）
一、修業年限　2年
一、出願資格　高校卒（61年3月卒業見込み含む）又は同等以上の学力あると認められる25歳以下の者
一、出願書類　入校願書その他必要な書類・要綱等の請求は返信用切手一七〇円を同封し新潟県農業大学校（巻町大字巻甲一二〇〇七）又は最寄りの農業改良普及所へ
一、願書受付　推薦入校（高校長推薦）60年11月20日から12月2日まで
一般入校　61年1月10日から1月31日まで
一、願書提出先　新潟県農業大学校長あて